



## 新規サイト

2008 年度より新たに、大山沢溪畔林試験地（コアサイト）、亜寒帯針葉樹原生林試験地、岩手大学御明神演習林大滝沢試験地、栃木県塩谷町尚仁沢イヌブナ・ブナ林、西丹沢菰釣山ブナ林、木曾赤沢ヒノキ林（準コアサイト）で調査が行われました。

### 亜寒帯針葉樹原生林試験地サイト

亜寒帯針葉樹原生林試験地サイトは北海道の大雪山国立公園内にあります。亜寒帯針葉樹林としては初のサイトです。1954 年の洞爺丸台風による攪乱をあまり受けておらず、エゾマツ、アカエゾマツの大径木が見られる原生林です。エゾマツ、アカエゾマツ、トドマツ、ダケカンバが優占し、出現種数は 11 種です。調査は北海道大学低温科学研究所、森林総合研究所、名古屋産業大学、名古屋大学の共同で 1999 年より行われています。2008 年度には 2ha の調査地のうち 1ha に、モニタリングサイト 1000 の準コアサイトが設置されました。



### 西丹沢菰釣山ブナ林サイト

西丹沢菰釣山ブナ林サイトは、神奈川県・西丹沢の尾根部に発達するブナを主とした落葉広葉樹林です。急な登山道を 1 時間かけて登り、調査地に着きます。調査地はササが密生しており、斜面も急なため、見通しが利かず、調査地の測量も大変です。東丹沢ではニホンジカによる被食によりササが衰退している森林も多く、西丹沢でも今後衰退する可能性があります。調査は横浜国立大学の協力のもと行われています。



## 北海道・足寄サイトにて晩霜害とマイマイガの大発生

足寄サイト(九州大学北海道演習林)では、2008年5月前半に遅霜が発生し、ミズナラなどの開きかけの芽が枯れてしまいました。さらに春からマイマイガが大発生し、ミズナラなどでは葉が食べられ、夏の終わりには丸坊主になりました。マイマイガは春に卵から孵化し、針葉樹・広葉樹・草本の葉を食べる広食性(こうしょくせい: 様々な種類の植物を食べるという意味です)の植食者で、周期的に大発生することが知られています。ミズナラの優占する森林では、林床も落葉期のような明るさになりました。落葉の季節性・量、物質循環や様々な生物に影響が出るかもしれません。こうした森林の変化をとらえるには、長期間モニタリングを継続することが不可欠です。



左：春に開葉した葉が茶色く枯れて、脇から5月にふたたび開葉した。中央：マイマイガの幼虫(6月)。右：マイマイガに被食されたミズナラ(9月)(写真提供：田代直明氏)

## 森林・草原調査コア・準コアサイト検討会が7月23日に開催

2008年7月23日に東京・自然環境研究センターで開催されました。2007年度の調査結果報告や第1期の取りまとめ解析について、40名を超える参加者の間で活発な意見交換が行われました。



## ピットフォール調査における甲虫の標本

2008年度の調査では、ピットフォール調査における甲虫の総捕獲個体数は5750個体で、全体の6割をオサムシ科甲虫が占めていました。全国のサイトで採取された甲虫はオサムシ科を中心に、苫小牧研究林のネットワークセンターにおいて標本にしています。今後、これらの標本を生物多様性センター等に所蔵していく予定です。



左：オサムシ科の標本を整理中  
右：雨龍サイトのアトマルナガゴミムシ

## 鳥類：ラインセンサスからスポットセンサスに調査方法を変更

2008年度から、より調査地間の比較がしやすいスポットセンサス法に調査方法を変更しました。繁殖期の調査では54種が記録されています。カヤノ平サイトでは、日本海側の多雪地帯のブナ林を特徴づけるクロジが観察されました。

この他、外来種のソウシチョウ、ヒゲガビチョウが京都大学和歌山研究林、市ノ又森林動態観測試験地で各々記録されています。こうした特徴的な種の抽出を行い、今後も個体数や分布の変化をモニタリングしていきます。



森林・草原調査コアサイト・準コアサイト 調査速報 平成20(2008)年11月

発行：環境省自然環境局生物多様性センター

編集：(財)自然環境研究センター／(財)日本野鳥の会  
石原正恵・豊田鮎(ネットワークセンター)

森林・草原調査コア・準コアサイトの詳細は <http://fox243.hucc.hokudai.ac.jp/moni1000/> をご覧ください。